

Ⅲ 就業の状況

1 就業の変化

第1回調査時に正規の仕事をしている者のうち、男性81.1%、女性58.4%が第8回調査時も正規の仕事をしている。

第1回が「仕事あり」の者について、就業形態の正規・非正規別でみると、第1回と第8回が「正規」の者の割合は、男は81.1%、女は58.4%となっている（表7）。

第1回に「非正規」だった者の第8回就業形態をみると、第8回に「正規」となっているのは、男40.3%、女15.5%となっており、男女とも年齢が低いほど「正規」になっている割合が高くなっている（図7）。

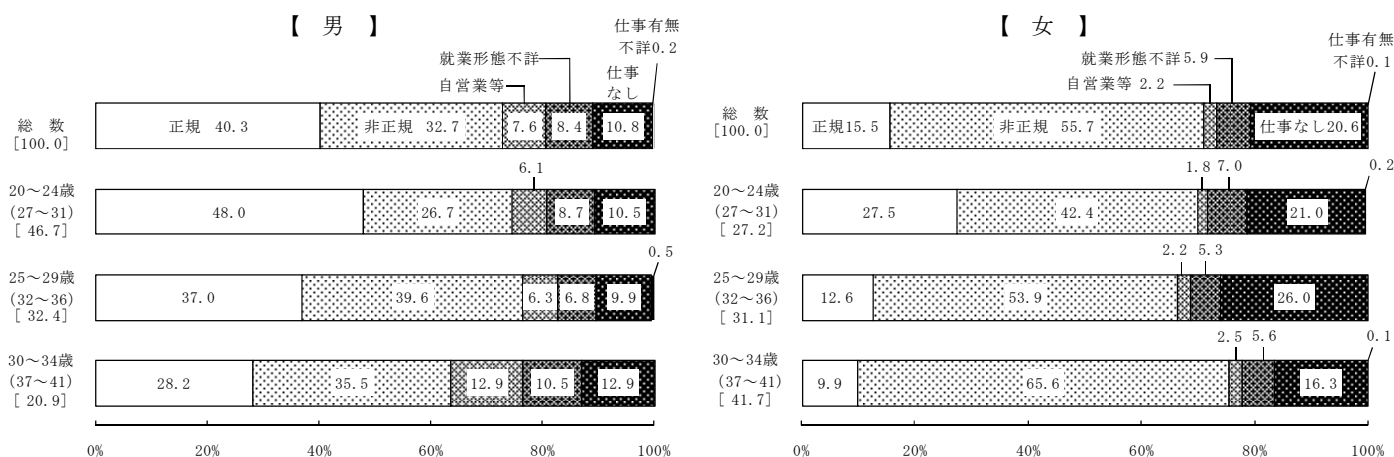
表7 性、第1回調査時の仕事の有無別にみた第8回調査時の仕事の有無

(単位：%)

		第8回調査時の仕事の有無、(再掲) 正規・非正規					
		総数	仕事あり	(再掲)		仕事なし	
				正規	非正規		
第1回調査時 (再掲) 正規・非正規 の仕事の有無、	男	(100.0)	100.0	93.3	63.6	8.9	6.6
	仕事あり	(88.1)	100.0	96.3	67.1	7.9	3.7
	(再掲) 正規	(60.7)	100.0	97.2	81.1	4.2	2.7
	(再掲) 非正規	(10.5)	100.0	89.0	40.3	32.7	10.8
	仕事なし	(9.1)	100.0	69.1	36.2	17.1	30.5
女	(100.0)	100.0	71.9	28.4	33.1	28.0	
仕事あり	(66.8)	100.0	80.6	37.9	31.4	19.3	
(再掲) 正規	(33.7)	100.0	80.5	58.4	15.4	19.5	
(再掲) 非正規	(25.0)	100.0	79.3	15.5	55.7	20.6	
仕事なし	(31.7)	100.0	53.6	8.5	36.9	46.3	

注：1) 集計対象は、第1回調査から第8回調査まで回答を得られている者である。ただし、第2回調査時に主に通学している者を除く。
2) 男、女には、仕事の有無不詳を含む。

図7 性、年齢階級別にみた第1回調査時に非正規だった者の第8回調査時の就業形態の変化



注：1) 集計対象は、第1回調査から第8回調査まで回答を得られている者である。ただし、第2回調査時に主に通学している者を除く。
2) 年齢は、第1回調査時の年齢である。()内は第8回調査時の年齢である。
3) 「自営業等」は、会社などの役員・自営業主、自家営業の手伝い、自宅での賃仕事(内職)を合算したものである。

2 学歴別にみた就業の変化

第1回調査時に仕事が正規で第8回調査時にも正規である割合、および第1回調査時に仕事が非正規の者で第8回調査時に正規になっている割合は、ともに学歴が高いほど高くなっている。

学歴別に第1回調査時と第8回調査時の就業形態をみた。

第1回に「正規」で第8回にも「正規」であるのは、男では、中学卒74.0%、高校卒79.3%、専門学校・短大・高専卒81.6%、大学・大学院卒86.3%となっている。また女では、中学卒26.3%、高校卒56.7%、専門学校・短大・高専卒58.3%、大学・大学院卒61.8%となっている。

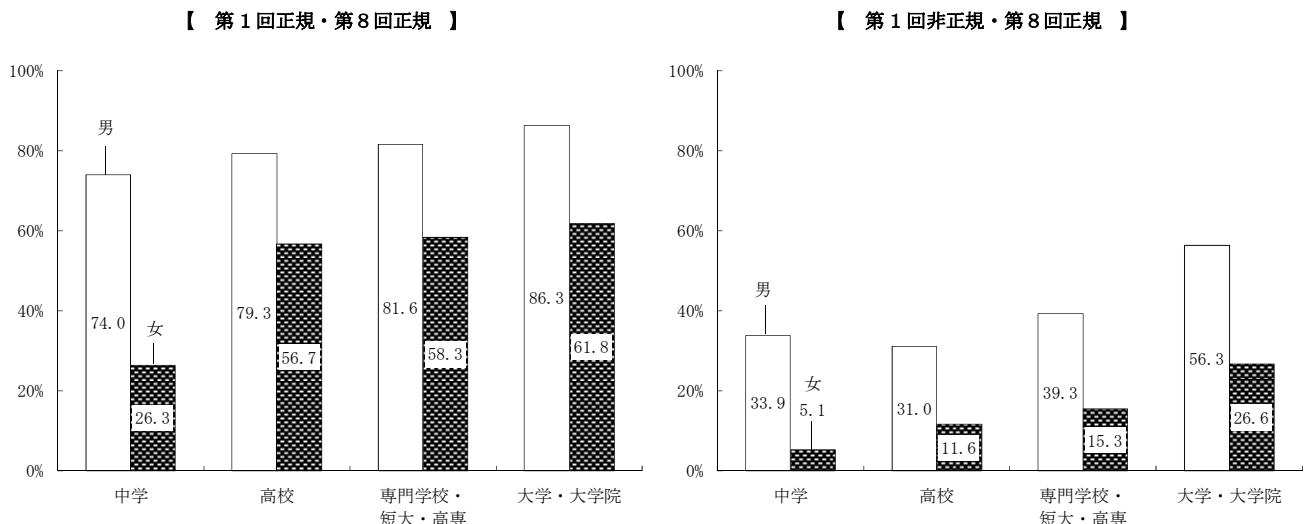
また、第1回に「非正規」で第8回に「正規」であるのは、男では、中学卒33.9%、高校卒31.0%、専門学校・短大・高専卒39.3%、大学・大学院卒56.3%となっている。また女では、中学卒5.1%、高校卒11.6%、専門学校・短大・高専卒15.3%、大学・大学院卒26.6%となっている。(表8、図8)

表8 性、学歴、第1回調査時の仕事の有無別にみた第8回調査時の仕事の有無

		男						女					
		第8回調査時の仕事の有無、(再掲) 正規・非正規						第8回調査時の仕事の有無、(再掲) 正規・非正規					
		総数	仕事あり	(再掲)		仕事なし		総数	仕事あり	(再掲)		仕事なし	
				正規	非正規					正規	非正規		
学歴、 (第1回調査時) の 非正規 の 有無	中学	(100.0)	100.0	84.0	46.9	13.7	15.2	(100.0)	100.0	65.2	9.7	41.5	34.8
	仕事あり	(81.2)	100.0	92.1	53.7	13.0	7.9	(48.3)	100.0	85.0	11.0	58.0	15.0
	(再掲) 正規	(43.6)	100.0	92.9	74.0	7.1	7.1	(9.2)	100.0	63.2	26.3	21.1	36.8
	(再掲) 非正規	(15.2)	100.0	86.4	33.9	37.3	13.6	(28.5)	100.0	91.5	5.1	76.3	8.5
	仕事なし	(13.7)	100.0	50.9	22.6	15.1	47.2	(47.3)	100.0	43.9	7.1	26.5	56.1
	高校	(100.0)	100.0	92.8	60.9	9.5	7.1	(100.0)	100.0	70.4	21.6	38.8	29.6
	仕事あり	(89.2)	100.0	95.9	64.4	8.3	4.1	(62.1)	100.0	82.0	31.4	38.8	18.0
	(再掲) 正規	(61.3)	100.0	97.0	79.3	5.1	2.9	(26.2)	100.0	82.3	56.7	17.7	17.7
	(再掲) 非正規	(9.7)	100.0	86.9	31.0	35.8	13.1	(27.6)	100.0	80.8	11.6	61.8	19.2
	仕事なし	(7.6)	100.0	60.2	24.9	20.4	39.2	(36.5)	100.0	51.2	5.3	39.0	48.7
	専門学校・短大・高専	(100.0)	100.0	94.9	65.1	7.7	5.1	(100.0)	100.0	73.7	32.2	31.1	26.2
	仕事あり	(91.1)	100.0	97.1	67.1	7.1	2.9	(69.7)	100.0	80.6	41.2	28.3	19.3
	(再掲) 正規	(62.6)	100.0	98.7	81.6	4.2	1.3	(40.1)	100.0	80.6	58.3	15.7	19.4
	(再掲) 非正規	(9.8)	100.0	86.0	39.3	30.8	14.0	(21.3)	100.0	77.9	15.3	55.2	21.7
	仕事なし	(7.0)	100.0	70.1	44.2	14.3	29.9	(29.1)	100.0	56.9	10.1	38.1	43.0
	大学・大学院	(100.0)	100.0	96.2	73.4	7.0	3.8	(100.0)	100.0	72.1	37.9	25.3	27.9
仕事あり	(87.5)	100.0	97.5	76.4	6.0	2.5	(73.0)	100.0	78.1	46.1	23.1	21.9	
(再掲) 正規	(64.9)	100.0	97.7	86.3	2.3	2.3	(39.9)	100.0	78.4	61.8	11.7	21.6	
(再掲) 非正規	(11.1)	100.0	94.8	56.3	27.6	5.2	(26.9)	100.0	77.1	26.6	42.3	22.9	
仕事なし	(10.7)	100.0	85.0	50.9	14.4	15.0	(25.6)	100.0	55.2	14.7	31.5	44.8	

注：1) 集計対象は、第1回調査から第8回調査まで回答を得られている者である。ただし、第2回調査時に主に通学している者を除く。
2) 学歴が「その他」「不詳」の者を除く。
3) 「中学」「高校」「専門学校・短大・高専」「大学・大学院」の総数には、仕事の有無不詳を含む。

図8 性、学歴別にみた第1回調査時及び第8回調査時の就業形態の変化



注：集計対象は、第1回調査から第8回調査まで回答を得られている者である。ただし、第2回調査時に主に通学している者を除く。

3 仕事をしてきた女性の結婚後の就業継続の有無

女性は、仕事が正規の場合 64.3%、非正規の場合 44.5%が結婚後も同一就業を継続している。

第1回の独身者について、この7年間に結婚し、結婚前に仕事をしてきた女性について結婚後の就業継続の有無をみると、「同一就業継続」は56.4%、「転職」は9.9%、「離職」は29.4%となっている。

また、就業形態別にみると、「正規」では64.3%が「同一就業継続」となっている。「非正規」では「同一就業継続」が44.5%、「離職」が39.3%となっているが、21～25歳では、半数以上が離職している。(表9、図9)

表9 年齢階級別にみた結婚した女性の就業継続の有無

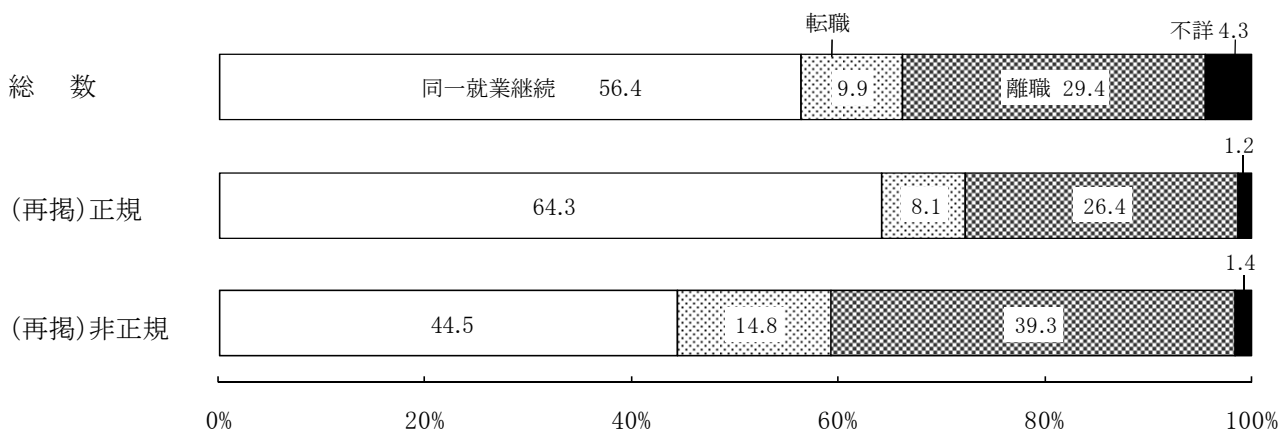
		(単位：%)							
		総数	同一就業継続	転職			離職	不詳	
				総数	(再掲)正規へ	(再掲)非正規へ			
結婚(再掲調査)時の結婚前年齢調査階級の正規・非正規	総数	(100.0)	100.0	56.4	9.9	2.2	6.9	29.4	4.3
	21～25歳	(12.5)	100.0	47.8	10.2	3.2	6.4	40.1	1.9
	26～30歳	(52.1)	100.0	56.5	10.0	2.0	7.0	28.9	4.6
	31～35歳	(28.4)	100.0	58.4	10.4	2.5	7.6	26.4	4.8
	36歳以上	(6.9)	100.0	63.2	6.9	-	4.6	25.3	4.6
	(再掲)正規	(100.0)	100.0	64.3	8.1	1.6	5.5	26.4	1.2
	21～25歳	(13.4)	100.0	56.5	9.3	3.7	4.6	34.3	-
	26～30歳	(53.7)	100.0	66.3	8.3	1.2	6.0	24.0	1.4
	31～35歳	(25.3)	100.0	63.2	8.3	2.0	5.9	27.0	1.5
	36歳以上	(7.7)	100.0	67.7	3.2	-	1.6	27.4	1.6
	(再掲)非正規	(100.0)	100.0	44.5	14.8	3.0	11.2	39.3	1.4
	21～25歳	(12.6)	100.0	30.4	13.0	2.2	10.9	56.5	-
	26～30歳	(49.7)	100.0	39.0	14.3	3.3	10.4	45.1	1.6
	31～35歳	(32.5)	100.0	55.5	16.0	3.4	12.6	26.9	1.7
36歳以上	(5.2)	100.0	63.2	15.8	-	10.5	21.1	-	

注：1)集計対象は、第1回調査時に独身で第8回調査まで回答を得られ、この7年間に結婚し、結婚前調査時に仕事ありの女性である。ただし、調査と調査の間に結婚し、かつ離婚した者を除く。

2)「正規」「非正規」は、結婚前調査時の状況である。

3)7年間で2回以上結婚している場合、最新の結婚の状況について計上している。

図9 結婚した女性の就業継続の有無



注：1)集計対象は、第1回調査時に独身で第8回調査まで回答を得られ、この7年間に結婚し、結婚前調査時に仕事ありの女性である。ただし、調査と調査の間に結婚し、かつ離婚した者を除く。

2)「正規」「非正規」は、結婚前調査時の状況である。

3)7年間で2回以上結婚している場合、最新の結婚の状況について計上している。

4 出生の状況別にみた仕事をしてきた妻の就業継続の有無

(1) 出生の有無、出生順位、就業形態別にみた状況

第1子出産のときに51.9%の妻が離職しており、就業形態で見ると、正規33.7%、非正規73.7%となっている。

夫婦のうち、「出生あり」は出産前調査時に、「出生なし」は第7回調査時に仕事をしてきた妻について、この7年間の出生の状況別に、就業継続の有無をみた。

出産後において「同一就業継続」であった割合は、「出生あり」では51.3%となっていて、出生順位別にみると、「第1子」では42.5%、「第2子」では60.9%、「第3子以降」では48.8%となっている。

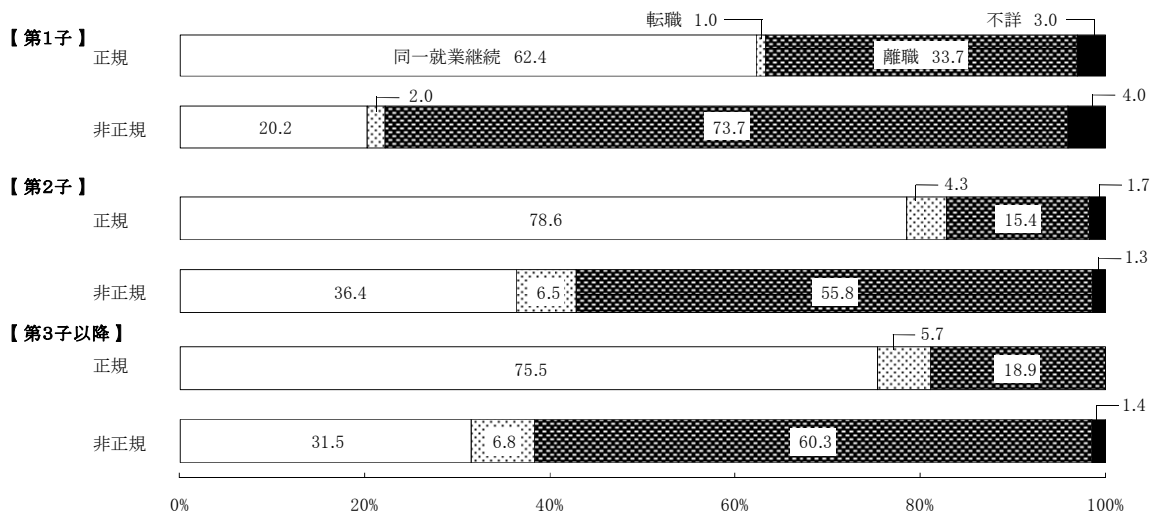
また、第1子出産の妻をみると、「同一就業継続」42.5%、「離職」51.9%となっている。そのうち正規では「同一就業継続」62.4%、「離職」33.7%、非正規では「同一就業継続」20.2%、「離職」73.7%となっている。(表10、図10)

表10 出生の有無、出生順位、就業形態別にみた妻の就業継続の有無

		(単位：%)					
		総数	同一就業継続	転職	離職	不詳	
出生の有無、 出生順位、 正規・非正規 (再掲)	出生あり	(100.0)	100.0	51.3	4.2	40.1	4.4
	(再掲) 正規	(44.0)	100.0	72.0	3.3	22.9	1.8
	(再掲) 非正規	(40.4)	100.0	28.5	4.8	64.3	2.4
	第1子	(34.7)	100.0	42.5	1.4	51.9	4.2
	(再掲) 正規	(16.4)	100.0	62.4	1.0	33.7	3.0
	(再掲) 非正規	(16.1)	100.0	20.2	2.0	73.7	4.0
	第2子	(38.6)	100.0	60.9	5.0	29.4	4.6
	(再掲) 正規	(19.0)	100.0	78.6	4.3	15.4	1.7
	(再掲) 非正規	(12.5)	100.0	36.4	6.5	55.8	1.3
	第3子以降	(26.6)	100.0	48.8	6.7	40.2	4.3
	(再掲) 正規	(8.6)	100.0	75.5	5.7	18.9	-
	(再掲) 非正規	(11.9)	100.0	31.5	6.8	60.3	1.4
	出生なし	(100.0)	100.0	76.6	7.4	7.9	8.1
	(再掲) 正規	(24.7)	100.0	89.6	2.6	5.8	1.9
	(再掲) 非正規	(59.4)	100.0	79.7	9.8	8.1	2.4

注：1) 集計対象は、①または②に該当し、かつ③に該当する夫婦である。
 ①第1回調査から第8回調査まで双方から回答を得られている夫婦
 ②第1回調査時に独身で第7回調査までの間に結婚し、結婚後第8回調査まで双方から回答を得られている夫婦
 ③「出生あり」は出産前調査時に、「出生なし」は第7回調査時に妻が仕事ありであった夫婦
 2) 「正規」「非正規」は、「出生あり」は出産前調査時の、「出生なし」は第7回調査時の状況である。
 3) 7年間で2人以上出生ありの場合は、末子について計上している。

図10 出生順位、就業形態別にみた出生のあった妻の就業継続の有無



注：1) 集計対象は、①または②に該当し、かつ③に該当する夫婦である。
 ①第1回調査から第8回調査まで双方から回答を得られている夫婦
 ②第1回調査時に独身で第7回調査までの間に結婚し、結婚後第8回調査まで双方から回答を得られている夫婦
 ③出産前調査時に、妻が仕事ありであった夫婦
 2) 「正規」「非正規」は、出産前調査時の状況である。
 3) 7年間で2人以上出生ありの場合は、末子について計上している。

(2) 妻の職場における育児休業制度の有無別にみた状況

正規の仕事をしている妻で第1子を出産し、育児休業制度を利用しやすい雰囲気がある場合 87.9%が出産後も同一就業を継続している。

夫婦のうち、出産前に妻が会社等に勤めていて、この6年間に子どもが生まれた夫婦について、育児休業制度の有無別に、出産後における妻の就業継続の有無をみた。

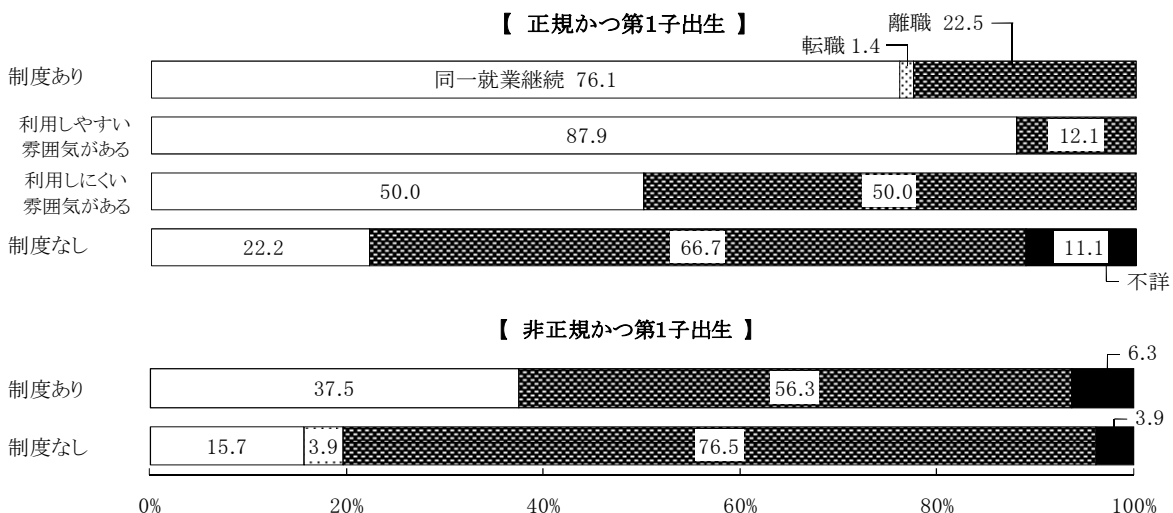
第1子を出産した妻の「同一就業継続」の割合を就業形態別にみると、「正規」で「制度あり」では76.1%、「非正規」で「制度あり」では37.5%となっている。また、「正規」で「制度あり」のうち「利用しやすい雰囲気がある」では87.9%、「利用しにくい雰囲気がある」では50.0%となっている。(表11、図11)

表11 妻の就業形態で利用可能な育児休業制度の有無別にみた就業継続の有無

		総数						(単位：%)	
		総数	同一就業継続	転職	離職	不詳			
出産前調査時の妻の就業形態で利用可能な正規・非正規	総数	(100.0)	100.0	52.2	4.3	41.7	1.8		
	制度あり	(52.9)	100.0	73.7	4.2	20.8	1.3		
	利用しやすい雰囲気がある	(30.5)	100.0	80.9	3.7	14.7	0.7		
	利用しにくい雰囲気がある	(8.5)	100.0	57.9	7.9	34.2	-		
	どちらともいえない	(12.3)	100.0	67.3	1.8	27.3	3.6		
	制度なし	(27.1)	100.0	25.6	4.1	66.9	3.3		
	制度があるかないかわからない	(17.0)	100.0	31.6	3.9	63.2	1.3		
	(再掲) 正規かつ第1子出生	(100.0)	100.0	66.3	1.1	30.4	2.2		
	制度あり	(77.2)	100.0	76.1	1.4	22.5	-		
	利用しやすい雰囲気がある	(35.9)	100.0	87.9	-	12.1	-		
	利用しにくい雰囲気がある	(17.4)	100.0	50.0	-	50.0	-		
	どちらともいえない	(21.7)	100.0	75.0	5.0	20.0	-		
	制度なし	(9.8)	100.0	22.2	-	66.7	11.1		
	制度があるかないかわからない	(13.0)	100.0	41.7	-	50.0	8.3		
	(再掲) 非正規かつ第1子出生	(100.0)	100.0	19.6	2.2	75.0	3.3		
制度あり	(17.4)	100.0	37.5	-	56.3	6.3			
利用しやすい雰囲気がある	(5.4)	100.0	60.0	-	40.0	-			
利用しにくい雰囲気がある	(4.3)	100.0	25.0	-	75.0	-			
どちらともいえない	(5.4)	100.0	20.0	-	60.0	20.0			
制度なし	(55.4)	100.0	15.7	3.9	76.5	3.9			
制度があるかないかわからない	(20.7)	100.0	10.5	-	89.5	-			

注：1) 集計対象は、①または②に該当し、かつ③に該当するこの6年間に子どもが生まれた夫婦である。
 ①第1回調査から第8回調査まで双方から回答を得られている夫婦
 ②第1回調査時に独身で第7回調査までの間に結婚し、結婚後第8回調査まで双方から回答を得られている夫婦
 ③出産前調査時に妻が会社等に勤めていて、育児休業制度の有無のデータが得られている夫婦
 2) 「正規」「非正規」は、出産前調査時の状況である。
 3) 総数には、育児休業制度の有無不詳を含む。
 4) 6年間で2人以上出生ありの場合は、末子について計上している。

図11 妻の就業形態で利用可能な育児休業制度の有無別にみた就業継続の有無



注：1) 集計対象は、①または②に該当し、かつ③に該当するこの6年間に子どもが生まれた夫婦である。
 ①第1回調査から第8回調査まで双方から回答を得られている夫婦
 ②第1回調査時に独身で第7回調査までの間に結婚し、結婚後第8回調査まで双方から回答を得られている夫婦
 ③出産前調査時に妻が会社等に勤めていて、育児休業制度の有無のデータが得られている夫婦
 2) 「正規」「非正規」は、出産前調査時の状況である。
 3) 6年間で2人以上出生ありの場合は、末子について計上している。

5 妻の就業形態別にみた保育サービスの利用状況

仕事ありの妻は、親の支援なしでは認可保育所（園）を利用している割合が高く、親の支援なしと比べると、親の支援ありでは幼稚園（預かり保育を除く）を利用している割合も高くなっている。

第8回に小学校入学前の子どもがいる妻について、第8回の親の支援の有無、妻の就業形態別に保育サービス等の利用状況（複数回答）をみた。

「仕事あり」の妻は、「親の支援あり」では40.6%、「親の支援なし」では63.9%が認可保育所（園）を利用している。（表12）

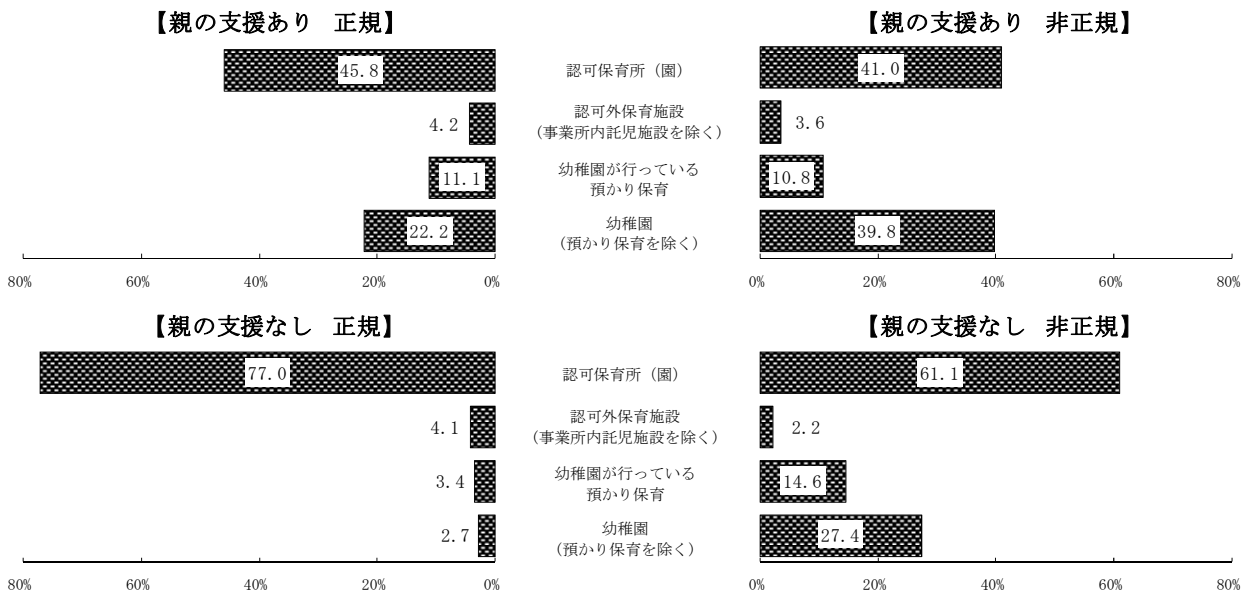
また、「親の支援なし」で幼稚園（預かり保育を除く）を利用している正規は2.7%、非正規では27.4%となっている（図12）。

表12 親の支援の有無、妻の仕事の有無別にみた保育サービス等の利用状況（複数回答）

		第8回調査時の保育サービス等の利用状況（複数回答）										
		総数	認可保育所（園）	事業所内託児施設	認可外保育施設（事業所内託児施設を除く）	ベビーシッター・保育ママ	ファミリー・サポート・センター	幼稚園が行っている預かり保育	幼稚園（預かり保育を除く）	利用していない	不詳	
第8回調査時の親の支援の有無、仕事の有無、（再掲）	総数	(100.0)	100.0	33.1	1.0	2.2	0.2	1.5	10.1	34.1	27.4	0.8
	仕事あり	(50.3)	100.0	57.0	1.8	3.1	0.3	1.7	10.9	23.9	13.3	0.3
	（再掲）正規	(16.9)	100.0	66.8	2.3	4.1	0.5	2.7	5.9	9.1	17.7	-
	（再掲）非正規	(23.8)	100.0	55.7	2.3	2.6	0.3	1.0	13.6	30.7	8.7	-
	仕事なし	(49.7)	100.0	8.8	0.2	1.2	0.2	1.2	9.3	44.3	41.6	1.2
	親の支援あり	(100.0)	100.0	28.6	1.0	3.3	-	1.0	9.5	33.2	33.2	0.7
	仕事あり	(63.2)	100.0	40.6	1.6	4.2	-	1.6	11.5	32.8	20.8	0.5
	（再掲）正規	(23.7)	100.0	45.8	1.4	4.2	-	2.8	11.1	22.2	23.6	-
	（再掲）非正規	(27.3)	100.0	41.0	2.4	3.6	-	-	10.8	39.8	18.1	-
	仕事なし	(36.8)	100.0	8.0	-	1.8	-	-	6.3	33.9	54.5	0.9
	親の支援なし	(100.0)	100.0	34.4	1.0	1.8	0.3	1.6	10.2	34.3	25.6	0.8
	仕事あり	(46.3)	100.0	63.9	1.9	2.6	0.4	1.7	10.6	20.1	10.2	0.2
	（再掲）正規	(14.8)	100.0	77.0	2.7	4.1	0.7	2.7	3.4	2.7	14.9	-
	（再掲）非正規	(22.7)	100.0	61.1	2.2	2.2	0.4	1.3	14.6	27.4	5.3	-
	仕事なし	(53.6)	100.0	9.0	0.2	1.1	0.2	1.5	9.9	46.4	39.0	1.3

注：1) 集計対象は、①または②に該当し、かつ③に該当するこの7年間に子どもが生まれた夫婦である。
 ①第1回調査から第8回調査まで双方から回答を得られている夫婦
 ②第1回調査時に独身で第7回調査までの間に結婚し、結婚後第8回調査まで双方から回答を得られている夫婦
 ③第8回調査時に小学校入学前の子どもがいる「女性票」の対象者である。
 2) 「保育サービス等の利用状況」とは、小学校入学前の子どもが複数いる場合には、いずれかの子どもが利用している保育サービス等を計上している。
 3) 総数には仕事の有無不詳を含む。
 4) () を除く数値は、「第8回調査時の親の支援の有無、第8回調査時の仕事の有無、（再掲）正規・非正規」ごとの総数を100とした割合である。

図12 親の支援の有無、妻の就業形態別にみた保育サービス等の利用状況（複数回答）



注：1) 集計対象は、①または②に該当し、かつ③に該当するこの7年間に子どもが生まれた夫婦である。
 ①第1回調査から第8回調査まで双方から回答を得られている夫婦
 ②第1回調査時に独身で第7回調査までの間に結婚し、結婚後第8回調査まで双方から回答を得られている夫婦
 ③第8回調査時に小学校入学前の子どもがいる「女性票」の対象者である。
 2) 「保育サービス等の利用状況」とは、小学校入学前の子どもが複数いる場合には、いずれかの子どもが利用している保育サービス等を計上している。

6 所得の状況

(1) 男の所得の状況

男性の第3回調査時から第8回調査時までの所得の状況をみると、年齢が高くなるほど中位数は高くなっているが、四分位分散係数は年齢による違いはあまりみられない。

男の第3回から第8回までの平均所得について金額階級別の割合をみると、27歳では「200万円以上300万円未満」が38.4%、32歳及び37歳では「300万円以上400万円未満」がそれぞれ33.6%、27.3%と最も大きくなっている。

また、第8回の所得について金額階級別の割合をみると、27歳及び32歳では「300万円以上400万円未満」がそれぞれ32.1%、33.3%、37歳では「400万円以上500万円未満」が23.3%と最も大きくなっている。(表13、図13)

表13 男の年齢別にみた第3～8回の平均所得金額階級及び第8回の所得金額階級

	第3～8回の平均所得金額階級			第8回の所得金額階級		
	27歳	32歳	37歳	27歳	32歳	37歳
	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
総数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
所得なし	0.7	0.6	0.2	6.5	5.0	1.4
100万円未満	14.1	6.7	2.8	4.6	3.2	1.2
100万円以上200万円未満	28.9	12.2	6.2	11.5	8.5	5.3
200万円以上300万円未満	38.4	30.0	16.1	27.5	20.9	12.5
300万円以上400万円未満	14.4	33.6	27.3	32.1	33.3	23.0
400万円以上500万円未満	2.8	13.8	23.4	13.4	16.7	23.3
500万円以上600万円未満	0.7	2.8	13.7	4.2	8.2	14.9
600万円以上	-	0.3	10.3	0.4	4.3	18.5
平均所得金額(万円)	211.4	291.4	406.0	270.6	316.3	433.2
第1・四分位数(万円)	149.3	220.0	298.3	200.0	240.0	300.0
中位数(万円)	214.5	300.0	388.0	295.0	310.0	400.0
第3・四分位数(万円)	270.0	375.0	493.5	350.0	400.0	530.0
四分位分散係数	0.28	0.26	0.25	0.25	0.26	0.29

注：1) 集計対象は、以下の①及び②に該当する者である。ただし、第3回調査から第8回調査まで全て所得金額不詳の者を除き、所得金額不詳の回がある場合は当該回のみ除く。

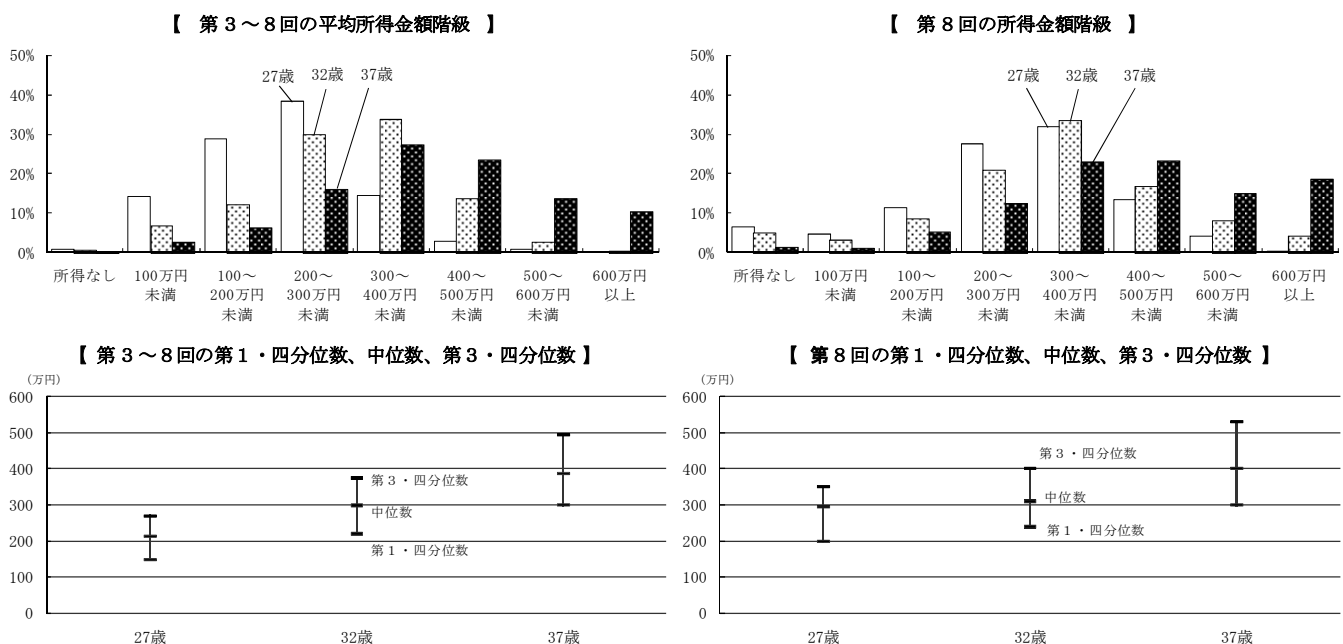
①第1回調査から第8回調査まで回答を得られている男性

②第1回調査時の年齢が20歳(第3回調査時22歳、第8回調査時27歳)、25歳(第3回調査時27歳、第8回調査時32歳)、30歳(第3回調査時32歳、第8回調査時37歳)の者

2) 年齢は第8回調査時の年齢である。

3) 「所得なし」は、第3回調査～第8回調査まで連続して所得のなかった者、または第8回調査時に所得のなかった者である。

図13 男の年齢別にみた第3～8回の平均所得金額階級、第8回の所得金額階級、第1・四分位数、中位数、第3・四分位数



注：1) 集計対象は、以下の①及び②に該当する者である。ただし、第3回調査から第8回調査まで全て所得金額不詳の者を除き、所得金額不詳の回がある場合は当該回のみ除く。

①第1回調査から第8回調査まで回答を得られている男性

②第1回調査時の年齢が20歳(第3回調査時22歳、第8回調査時27歳)、25歳(第3回調査時27歳、第8回調査時32歳)、30歳(第3回調査時32歳、第8回調査時37歳)の者

2) 年齢は第8回調査時の年齢である。

3) 「所得なし」は、第3回調査～第8回調査まで連続して所得のなかった者、または第8回調査時に所得のなかった者である。

(2) 女の所得の状況

女性の第3回調査時から第8回調査時までの所得の状況をみると、年齢が高くなるほど中位数は低くなり、四分位分散係数は大きくなっている。

女の第3回から第8回までの平均所得について金額階級別の割合をみると、27歳及び32歳では「100万円以上200万円未満」がそれぞれ40.1%、29.9%、37歳では「100万円未満」が39.4%と最も大きくなっている。

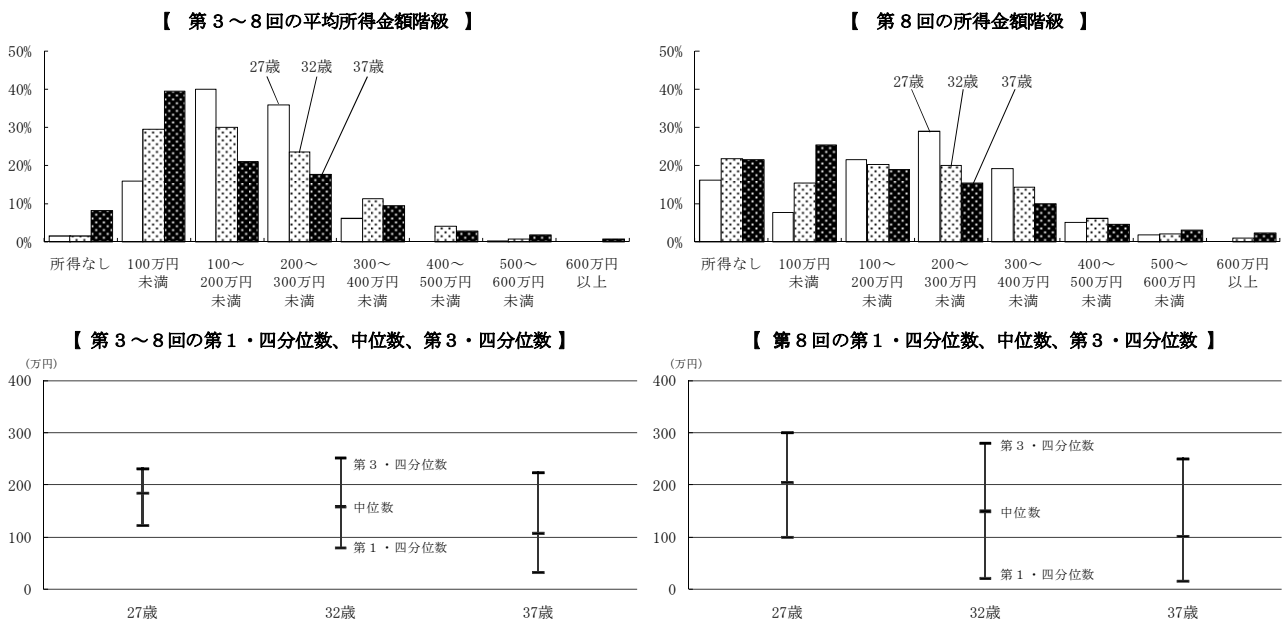
また、第8回の所得について金額階級別の割合をみると、27歳では「200万円以上300万円未満」が28.9%、32歳では「100万円以上200万円未満」が20.2%、37歳では「100万円未満」が25.2%と最も大きくなっている。(表14、図14)

表14 女の年齢別にみた第3～8回の平均所得金額階級及び第8回の所得金額階級

	第3～8回の平均所得金額階級			第8回の所得金額階級		
	27歳	32歳	37歳	27歳	32歳	37歳
	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
総数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
所得なし	1.6	1.5	8.0	16.1	21.7	21.4
100万円未満	15.9	29.4	39.4	7.7	15.4	25.2
100万円以上200万円未満	40.1	29.9	20.8	21.5	20.2	18.9
200万円以上300万円未満	36.0	23.5	17.6	28.9	19.9	15.2
300万円以上400万円未満	6.1	11.0	9.4	19.1	14.2	10.0
400万円以上500万円未満	-	4.1	2.6	5.0	6.0	4.4
500万円以上600万円未満	0.3	0.6	1.6	1.7	1.8	2.9
600万円以上	-	-	0.6	-	0.9	2.1
平均所得金額(万円)	178.6	174.5	146.6	194.7	169.3	158.1
第1・四分位数(万円)	122.5	79.8	33.0	100.0	20.8	16.0
中位数(万円)	183.0	158.0	108.5	205.0	150.0	103.0
第3・四分位数(万円)	231.0	251.3	224.3	300.0	280.0	250.0
四分位分散係数	0.30	0.54	0.88	0.49	0.86	1.14

注：1)集計対象は、以下の①及び②に該当する者である。ただし、第3回調査から第8回調査まで全て所得金額不詳の者を除き、所得金額不詳の回がある場合は当該回のみ除く。
 ①第1回調査から第8回調査まで回答を得られている女性
 ②第1回調査時の年齢が20歳(第3回調査時22歳、第8回調査時27歳)、25歳(第3回調査時27歳、第8回調査時32歳)、30歳(第3回調査時32歳、第8回調査時37歳)の者
 2)年齢は第8回調査時の年齢である。
 3)「所得なし」は、第3回調査～第8回調査まで連続して所得のなかった者、または第8回調査時に所得のなかった者である。

図14 女の年齢別にみた第3～8回の平均所得金額階級、第8回の所得金額階級、第1・四分位数、中位数、第3・四分位数



注：1)集計対象は、以下の①及び②に該当する者である。ただし、第3回調査から第8回調査まで全て所得金額不詳の者を除き、所得金額不詳の回がある場合は当該回のみ除く。
 ①第1回調査から第8回調査まで回答を得られている女性
 ②第1回調査時の年齢が20歳(第3回調査時22歳、第8回調査時27歳)、25歳(第3回調査時27歳、第8回調査時32歳)、30歳(第3回調査時32歳、第8回調査時37歳)の者
 2)年齢は第8回調査時の年齢である。
 3)「所得なし」は、第3回調査～第8回調査まで連続して所得のなかった者、または第8回調査時に所得のなかった者である。